

社会福祉法人 弘英会

令和6年度 事業計画

1. 法人の理念

目と手に心をそえて

2. 基本方針

施設は明るく家庭的な雰囲気有し、地域や家庭との結びつきを重視した運営を行い、市町村保険者、居宅介護支援事業者、居宅サービス事業者、他の介護保険施設その他保健医療サービス又は福祉サービスを提供する者との密接な連携に努める。

3. 重点的取組み計画

2025年問題を目前に控え、介護老人福祉施設については今後も中重度の高齢者が増加することが見込まれる中、入所者のニーズに応え、安定的にサービスを提供するために、どのような方策を考えるかが重要な年度になる。4月からの介護報酬改定に伴い、法人として長期的な運営の基盤を固める事に重点をおき運営・経営の安定継続に努めます。

(1) ガバナンスの強化について

- ・組織体制の充実化

各拠点の運営方針の統一化, 見える化を図る

法人内研修の充実 (合同研修会の実施)

(2) 人材育成・定着について

- ・中堅職員のキャリアアップ (主軸となる職員のスキルアップを促す)
- ・外国人人材の教育体制の確立

(3) 財務計画について

- ・介護報酬改定を鑑み、運営基盤の強化に努める

神出シニアコミュニティ

令和6年度 事業計画

【 部 署 】	施設本部
【 計 画 】	(1) 人材育成 新入職員のフォロー体制の強化、主軸となる候補者の育成 (2) 職場環境改善（辞めない職場作り） 職員間のコミュニケーション 労働環境の見直し（腰痛予防、業務上の動線を考えた環境作り） (3) コンプライアンスの徹底 法令遵守・ハラスメント研修の実施。接遇の意識づけ

【 部 署 】	相談員
【 計 画 】	特 養 (1) ベッドコントロール 入院者の状態を的確に把握。ショートステイ相談員と連携を図り、空きベッド利用を進めていく (2) 入所検討委員会の充実 居室フロア移動等の環境整備を早期に検討し、新規入所の受け入れ態勢を迅速に行う ショート (1) 楽しみのある生活環境を提供していく コミュニケーションを密に図りレクリエーションの充実を図る

【 部 署 】	介 護
【 計 画 】	(1) 個々の状態に応じた対応の実践 画一的なケア、対応だけではなく利用者個々の状態を把握し、よりよいケアが提案できる力を高める (2) 職員個々が考える力、発信する力の向上 ・フロア会議の充実 ・疑問や問題に対し、個々の考えを引き出す

【 部 署 】	看 護
【 計 画 】	(1) 利用者が安心して過ごせるよう健康管理を行う 看護師間の情報共有、ケアの統一 (2) 感染対策の強化

	<p>感染症予防研修の実施(実演)</p> <p>(3) 看護スキルの向上</p> <p>研修の参加・医務室会議内での勉強会の実施</p>
--	---

【 部 署 】	デイサービスセンター
【 計 画 】	<p>(1) 利用者中心の動きの統一</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ全員で情報共有し、利用者に応じたサービスの提供をする ・業務の効率化を図り利用者により関わられる時間を作る

【 部 署 】	居宅介護支援事業所
【 計 画 】	<p>(1) 介護支援専門員の資質向上を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定事業所居宅事業所共催研修に参加し、連携を深めマネジメントに生かす ・事業所内会議の充実 ・医療サポートセンターやケアマネ連絡会等の外部研修に参加しマネジメント力を向上させる <p>(2) 研修計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の研修会（事例検討会・地域ケア会議等）への参加 ・緩和ケア症例検討会 ・事業所内外の研修会に参加する <p>(3) 各関係機関との連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あんしんすこやかセンターをはじめ、各関係機関との連携を密におこないニーズに沿ったケアマネジメントが行えるように努める

須磨シニアコミュニティ

令和6年度 事業計画

【 部 署 】	施設本部
《 計 画 》	(1) 経営基盤の安定 特養・ショート・デイ 月毎の予算達成 (2) 人材育成 介護コーディネーター（教育係）を新設し入職研修及び（入職後）フォローアップ面談・研修を実施 (3) 業務内容の見直し改善 今迄の慣例にとらわれず良い事は取り入れ試し実践

【 部 署 】	特養相談員
《 計 画 》	(1) 稼働率の安定 多職種（介護士・看護師・栄養士等）と連携を図り入院者減を目指す (2) 利用者・家族からのニーズの把握 ニーズを把握し方向性に添ったサービスの見直しの検討

【 部 署 】	ショート相談員
《 計 画 》	(1) 事業所との連携・情報交換の活用 サービス担当者会議や他事業所と情報交換し検討する (2) 稼働率の安定 利用者・家族からのニーズを把握しリピーターの安定化を図る (3) リピーターの増加・ロング利用者の増加 週末のみならず平日利用のリピーター増加をめざしロング利用へ繋げる

【 部 署 】	特養介護
《 計 画 》	(1) 人材の育成 新入職者に対する受け入れ態勢と一貫性の有る研修システムの構築 (2) 職場環境の整備 入居者様との関わり合いの時間を作る為、業務の効率化を図る (3) サービスの質の向上 施設理念に基づき思いやりがある介護を行い、不適切ケアや虐待防止に努める

【 部 署 】	特養看護師
《 計 画 》	(1) 看護の役割の明確化と業務改善・スキルアップ教育 高齢者施設における看護の役割を明確化し、意思統一を図る (2) 嘱託医・他部署との連携の強化 利用者様の些細な変化の報告にも留意し異常の早期発見に努め速やかに嘱託医への連絡・指示対応の体制がとれるようにする

	<p>(3) 早期対応による稼働率の確保 早期治療・受診を心掛け、重篤化を防止し稼働率を確保する</p> <p>(4) 感染対策の教育と徹底 定期的に研修会を行い感染対策への意識向上を図る事によりクラスター発生を回避する</p>
--	--

【 部 署 】	デイサービスセンター
《 計 画 》	<p>(1) 魅力あるデイへの転換 ご利用者に合ったレクリエーションの提供を心掛ける (レクリエーション・外出行事等)</p> <p>(2) 稼働率の安定 ご利用者契約の増進</p> <p>(3) 業務内容の改善・任務分担の改善 スタッフ同志、笑顔で・声掛け協力し合い業務を行う</p> <p>(4) 働きやすい環境の整備 職員が思っている事を上長に話せる環境作り</p>

【 部 署 】	須磨シニアケアプランセンター
《 計 画 》	<p>(1) 利用者の確保 関係機関との連携を密に行い安心して任せていただける事業所づくりを行い新規利用者の獲得につなげる</p> <p>(2) 個人の尊厳と自立支援 利用者について生活状況を理解し、利用者が在宅生活を続けて行く上で、どのような生活課題（ニーズ）があるかを明らかにしていく</p> <p>(3) 感染症対策の強化 感染症の予防及び蔓延の防止のための研修及び訓練参加と研修記録</p> <p>(4) 業務継続計画の策定 業務継続計画に必要な研修及び訓練へ参加と研修記録</p> <p>(5) 虐待の防止 東須磨居宅と合同で虐待委員会を新規立ち上げる</p>

【 部 署 】	東須磨ケアプランセンター
【 計 画 】	<p>(1) 地域の方々との地域共生社会の実現への取り組みの継続 地域包括支援センター等が開催する地域ケア会議に参加し必要な制度や地域課題をみつけ地域の資源開発の提案が行えるように居宅の担っている役割を意識する</p> <p>(2) 利用者の強みに着目し、すべての支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築 居宅介護支援に係る法令を遵守し基準に則した運営を行う</p> <p>(3) 介護支援専門員の資質の向上を図る 定期的（週1回）に居宅会議を開催し、ケアマネジメントにおける困難事例の検討、業務上の改善点やケースについて検討し情報共有を行う</p> <p>(4) ケアマネジメントの質の向上を図る 支援困難ケースの積極的な対応等地域における居宅支援事業所として圏域内の居宅介護事業所と共催し定期的に研修会を開催する</p>

【 部 署 】	板宿あんしんすこやかセンター
【 計 画 】	<p>(1) 神戸市地域包括支援センター運営評価基準を遵守したセンター運営 地域行事での広報・啓発、地域ケア会議の開催、認知症に関する取り組み虐待や緊急時の対応など、神戸市より委託を受けている運営基準を順守し地域に対しての様々な取り組みを継続します</p> <p>(2) 職員相互の信頼・協力関係を構築し情報共有を密に行い、専門性の発揮とチームアプローチの両立 職員一人で一つの問題に取り組むのではなく専門職の知識や経験を話し合いの中で情報共有しながら多問題に柔軟に対応していきます</p> <p>(3) 地域診断を通じて地域課題の客観化・分析を行い、住民・多職種多機関との協働で問題解決にあたり支援する センターの業務の一つである相談者と地域資源をつなぐ役割を十分に発揮できるように、圏域内の社会資源（病院・薬局・デイサービス等）と顔も見える関係づくりを継続</p>